



優秀賞 (総合部門)

タイトル

「佐野の家」築130年の古民家再生

タイプ

持家一戸建

講評

築130年の古民家を世代を超えて受け継ごうという、家への思いがリフォームを成功させた。光庭の導入がキーで、暗く使いにくい空間が一変した。民家の持つ骨太な高い天井の空間にモダンなインテリアが違和感無く融合している。

リフォーム前後の写真



既設外観を見る



既設玄関を見る



既設和室を見る



既設キッチンを見る



ダイニング・キッチン・光庭を見る



キッチン・ダイニングを見る



リビングの夕景



玄関から光庭を見る



リビングから和室を見る



改築後外観を見る



和室書院を見る



浴室を見る



リビングよりダイニングを見る

リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

「世代を超えて、受け継いできた家を次の世代に受け渡したい」との思いがご家族にあり、古民家再生事例を調べられた中で、当事務所の作品を気に入られご相談に見えたのが計画の始まりでした。築130年の既存建物は本瓦葺の重厚な佇まいですが、さすがに130年の風雪に耐え抜いた外観は老朽化が進み、内部も改築されていましたが、日中でも電気をつけないと暗く、通路も狭く各部屋も機能がマヒしていました。道路に面しているLDKは、車の交通量が多いため窓も開けにくく冷暖房に頼らなければならない状況でした。

ご要望は、和室部分は既存のままとして基礎と屋根を直して、プライベートルームの確保と家族が集える「ゆったり寛げる場所」を希望されていました。

計画は、既設キッチンと蔵の間に「光庭」を設けることで、ダイニング・キッチンと玄関に「光」「風」「緑」を取入れ、既設天井を撤去してリビングにトブライトを設けると共に南面に大きな開口部をつくることで、南

面に薄暗い玄関だったところが、明るく開放的でゆったりとしたリビングになりました。段差もプライベートルーム・廊下・ダイニングキッチン・玄関ホールはフラットにしています。お母さんの部屋は南面の陽当たりの良い場所に設け、周りにバリアフリーにしたトイレ・風呂などの水まわりも配置しました。各部屋の収納も必要十分のスペースを確保しています。構造は建物を20センチ上げてベタ基礎にして、建物を金物で締結し、柱の増強、耐力壁、差し鴨居などで構造的に補強しています。

「捨てる部分」と「残す部分」を慎重に選択して日本建築の良さを生かしながら、インテリアは「和」のテイストでコーディネートせずにあえて「モダン」を取入れました。

クライアントの感想は、「古い建物をつぶしてしまわなくても、快適な空間を実現することができるんですね!」

特に配慮した住宅性能:

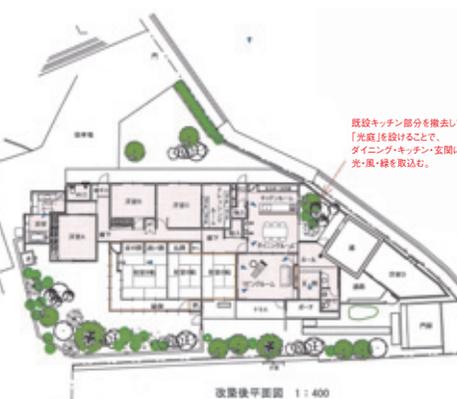
データ

所在地	大阪府泉佐野市	構造/築後年数	在来木造/130年		
該当工事面積	197 m ² /総工事床面積	197 m ²	該当部分工事費	3,200 万円/総工事費	3,200 万円
居住者構成	15歳以上65歳未満: 4人/65歳以上: 1人/15歳未満: 人/ペット: 犬1匹(紀州犬)				
設計者	平井憲一建築事務所	担当者	平井 憲一		
施工者	(株)日の出組	担当者	東村 明良		

リフォーム前



リフォーム後



既設キッチン部分を撤去して「光庭」を設けることで、ダイニングキッチン・玄関に光・風・緑を取込む。